

看護ケア推進たより 5号

こんにちは **KKS21** です

KANGOKEASUISHIN

2014年9月



独立行政法人 地域医療機能推進機構 **大阪病院**
Japan Community Health care Organization **Osaka Hospital**

「ケア連携の会」も回を重ねるたびに地域の多職種の皆様の参加が増えてまいりました。また、認定看護師が地域に出向き、訪問看護ステーションの皆様と患者ケアについて検討する機会も増えてまいりました。昨年からはじめた在宅医療・看護研修は今年も10月に、福島区の水都メディカルクリニック、中村クリニック、サギス中クリニック、福島区訪問看護ステーション、此花区の村川医院、松井クリニック、島村診療所、訪問看護ステーション此花の皆様のご協力を得て、研修させていただきます。患者とその家族にとって最善の医療・看護を提供するためには、地域との垣根を越えてどんどん患者の暮らしの場に赴かなければならないと思っています。JCHO 大阪病院として半年、看護ケア推進メンバーは日々活動の範囲を広げ、地域と手を結んでいます。どうぞ、看護ケア推進メンバーを更にご活用くださいますようお願い申し上げます。



ピンクリボンキャンペーン

10月には世界中で乳がん啓発活動を表す「ピンクリボンキャンペーン」が開催されています。女性のがん罹患率で1位となっている乳がん！ただし、早期発見・早期治療で治癒が可能な疾患とも言われています。当院では「乳がん患者会」を10月18日(土)に行い、今年は「ピンクリボンキャンペーン in JCHO 大阪病院」として、病院内でピンクリボン活動を行います。職員の皆様も一緒に、自分自身・家族や親戚・パートナーの事を思って行動できる10月にしませんか。(乳がん看護認定看護師 今井康乃)



世界糖尿病デー

世界糖尿病デーとは、増え続ける糖尿病抑制のため国連が定めた啓発活動です。11月14日を糖尿病デーと定め、建築物がシンボルカラーであるブルーにライトアップされるなど、世界中で様々なイベントが行われます。当院でも11月10日(月)、11月14日(金)に血糖測定体験、フットケア、医師の相談コーナー、ポスター展示などの世界糖尿病デーイベントを行います。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお立ち寄りください。

(糖尿病看護認定看護師 前田結香)

「第5回 JCHO 大阪病院 ケア連携の会」開催報告



結核について情報提供する柴谷感染管理認定看護師

はじめに、柴谷涼子感染管理認定看護師による「結核について」の情報提供を行いました。大阪市内は結核の発生数が多く、又、介護サービスを利用しながら在宅で過ごしていた患者様が入院後に結核に罹患していることが判明した事例を経験したことから、企画致しました。「結核に注意するきっかけになった」「結核に関する知識や対応が分かった」等の意見を頂きました。結核に限らず、今後も最新の医療・看護ケアに関する情報をケア連携の会等を通して発信して参りたいと思います。

続いて、「様々な課題を解決し患者・家族の希望を叶えるための多職種連携を考える」をテーマに



症例に関わってくださったケアマネージャーさんに在宅での経過を発表いただきました。

平成26年7月7日(月)に「第5回 ケア連携の会」を開催致しました。当日は、院外から37施設57名・院内から34名の計91名の参加があり、これまでで最も多い人数での開催となりました。

一症例を通してグループワークを行いました。ケアマネージャーや訪問看護師に加え、訪問リハビリを行うセラピストにも参加いただき、各グループとも活発な検討がなされました。退院前から多職種が関わり、患者様や御家族の希望、退院後の生活イメージを共有しながら連携することの重要性を再確認することができました。

今後「繋げようケアの力！ 広げようケアの輪！ 高めようケアの質！」を合言葉に、様々なテーマでケア連携の会を企画する予定です。



大阪病院のスタッフも加わり、グループに分かれて意見交換

(退院調整看護師 川邊裕子)

「伊坪さんが行く！！」～せん妄・認知症患者対応支援夜勤をはじめました～

今年5月より月2回のペースですが、「せん妄・認知症患者対応支援夜勤」を行っています。

せん妄というのは、環境の変化や、体調悪化、睡眠障害などによって引き起こされる一時的な意識障害です。急に怒りっぽくなったり、つじつまの合わない発言や行動をするようになり、活動が過剰になったり、逆にぼんやりすることが多くなったりする状態を指します。せん妄は入院する患者さんであれば、誰でも発症するリスクはありますが、特に高齢者は発症するリスクが高いとされています。「夜間せん妄」という言葉があるように、夜間のみ症状が悪化するせん妄もあります。また、認知症の方は環境の変化になじむのに時間がかかるため、せん妄を発症するリスクは高く、せん妄だけではなく、徘徊や妄想といった行動・心理症状を引き起こす可能性もあります。



1. 勤務開始。まずは病棟を巡回し病棟スタッフと情報交換



2. 情報収集し介入計画立案



3. 介入内容を管理夜勤看護師長へ報告



4. 勤務終了後、看護部長へ報告

せん妄や行動・心理症状を引き起こすと、治療やリハビリテーションがうまくいかなくなるという場合もあります。できる限りせん妄や行動・心理症状を引き起こさないよう、発症した場合は、早期に終息できるよう、関わる必要があります。そこで、せん妄を発症するリスクの高い患者さんや行動・心理症状のある認知症高齢者の方を各病棟より情報提供してもらい、夜勤帯に各病棟をラウンドさせていただいています。

実際の活動としては、せん妄を発症された方に対して対応したり、せん妄や行動・心理症状の原因となっていることや、ケアの方法について担当看護師の方とともに考えたりしています。

発症当日だけではなく、その後症状が終息しているのか、どうすれば終息するのも考え、看護ケアを一緒に立案させていただいています。また、患者さんの急激な変化に患者さんの家族が戸惑うことも多く、患者さんの家族に対してもケアが行き届くよう配慮をしています。

まだ、活動を始めたばかりで、活動についてご存じなかった方もいらっしゃるかと思いますが、お気軽に声をかけてくださいますよう、よろしく願いいたします。高齢者の方が少しでも安らかに入院生活を送れるよう、努めていきたいと思っています。

(老人看護専門看護師 伊坪恵)

新メンバーの紹介

中濱多紀（糖尿病看護認定看護師）

看護ケア推進室に所属し、糖尿病看護・NSTに関わることについて活動させていただいています。糖尿病をもつ患者さんは、どの部署にもいらっしゃると思います。糖尿病に関することで何か困ったときやご不明な点があればいつでも声をかけてください。よろしくお願いします。



高橋良知（手術看護認定看護師）

看護師として働き始めて8年。その間手術看護に携わり、この度手術分野の認定看護師となりました。手術看護では、麻酔がかかり患者さんの意識がなくなった後も、安心して安全に手術が受けられるよう、患者さんの代弁者となり、手術に携わるスタッフと協働しています。まだまだ未熟な点もたくさんありますが、より良い医療が提供できるよう、共に働く仲間と協働し努力していきたいと思っています。よろしくお願いします。



玉利由佳（退院調整看護師）

整形外科病棟で6年間勤務した後、今年度より医療福祉相談室へ異動となりました。院内多職種の方々、さらに地域の方々と関わる機会が増え、チーム医療・地域連携の重要性を日々感じています。様々な方々にご指導頂きながらではありますが、患者・家族が安心して退院を迎えられるよう、皆様と一緒に考え、支援できるよう頑張っていきたいと思っています。療養支援においてお困りの事がありましたら、お気軽にご相談下さい。



編集後記

2011年の創刊号から早3年、5号の発刊を迎える事ができました。新メンバーも続々と増え、再度それぞれの専門性の強みを伝えていこうと話しました。患者・家族を一番に想う気持ちを共有しながら、より良いチーム医療を提供できるように、皆さまと協働していきたいと思っています。日々看護している中で、お困りの場面や葛藤している思いなど気軽に声をかけて頂き、皆様と共に大阪病院の看護の力を発揮できたらと思います。皆さまから相談の声をかけやすい近い存在を目指します！！KKS21を今後ともよろしくお願い致します！（T）